

平成27年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

## 小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

### 注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙のほかに、下書き用紙を配布するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

## 問 題

次の文章を読んで以下の各問に答えなさい。

私たち日本人は、四季の移ろいとともに美しく変化する風景、多種多様な鳥獣や草花、山や海の幸などをもたらす自然とともに生きることで、独特の自然観をはぐくみ、さまざまな知識、技術、豊かな感性を培ってきました。また、豊かな恵みだけでなく、時として地震や台風などの脅威をもたらす自然に対し、畏敬の念や謙虚さを抱き、人間もその一部であるとの認識の下に暮らしてきました。

明治期に入ると、西洋諸国に倣って近代文明を目指し、経済成長、科学技術の発展を重視した道を歩み始め、昭和期には高度経済成長を経て、経済的・物質的な豊かさを手に入れました。しかし、急激な近代化や経済成長の陰で自然や生活環境は荒廃し、公害の原点と言われる足尾鉍毒事件や、水俣病などの四大公害病が生じました。近年では、(A)地球温暖化や生物多様性の損失などの環境問題も生じています。

さらに、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、日本観測史上最大の地震と津波により、広範囲で尊い命や生活基盤を奪いました。また、深刻な原子力災害によって環境中に放出された放射性物質による汚染の影響は甚大であり、私たちは、除染や放射性廃棄物の処理などの長期的課題を背負うとともに、これからのエネルギー供給や自然との関係について、改めて考え直す必要に迫られています。

こうした環境やエネルギーの問題のほか、長引く経済の低迷等の問題を抱えるなか、これまでの経済社会のあり方や豊かさ、環境に対する考え方が変わろうとしています。平成 24 年度に実施した震災後の価値観の変化に関する調査では、震災前より節電や省エネルギーを多少なりとも重視するようになった、と回答した人が、全体の約 70%を占めました。また、これまでの日本における大量生産・大量消費型の経済を多少なりとも変えていく必要がある、と回答した人が、全体の 80%近くを占めました。

(B)人々の意識の変化からも見られるように、私たちは今、これまでのようなライフスタイルや社会経済の構造を見直し、地球環境に負荷をかけない持続可能で真に豊かな社会を築いていけるような新たな生き方を選択すべき時を迎えているのではないのでしょうか。

私たちは、先祖から脈々と受け継がれてきた自然環境を基盤にして現在の社会を築き上げてきました。現代を生きる世代として、未来を生きる子供達に負の遺産を残すことがないように、環境汚染などの問題をできる限り解決するとともに、経済的な豊かさに加えて、自然環境や生活環境の豊かさをも包含する持続可能で真に豊かな社会を築き上げ、未来の子供達に繋いでいかなければなりません。

(環境省、平成 25 年版 環境白書 循環型社会白書／生物多様性白書、2～3 ページ、抜粋)

問1 近年、人類の活動は地球規模で環境に影響を及ぼすまでに大きくなり、下線部(A)にあるような問題を引き起こしていると考えられます。その問題は人類のどのような活動が原因で、どのような結果をもたらすのか、具体的な例を一つ挙げて、あなたの考えを200字以上、400字以内で説明しなさい。

問2 下線部(B)に関して、「地球環境に負荷をかけない持続可能で真に豊かな社会を築いていけるような新たな生き方」とは、どのような生き方なのか、具体的な例を示して、あなたの考えを300字以上、600字以内で説明しなさい。

平成27年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

## 小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

### 出題の意図

亜熱帯生物資源科学科ではアドミッションポリシーとして、「生物資源の利用・開発及びバイオテクノロジーに関心のある人」を求める人材の一つとして挙げている。亜熱帯資源科学科の目指す種々の製品・資源の開発や、これらの産業への応用には、環境に対する適切な判断力が必要とされる。

本試験では、環境問題の因果関係とその解決策について、いかに筋道立てて自らの意見を組み立てることができるかをみる。